

乳幼児の 健やかな発達にとって 大切な環境とは何か

日時 2010年10月9日(土)
10:30~16:00(10:00 開場)

会場 福武ホール
(東京大学・本郷キャンパス内)

入場無料 事前登録制。先着順。
定員(200名)になり次第締切。
※申し込み方法は裏面をご覧ください。

ベネッセ次世代育成研究所では、設立5周年を記念した公開シンポジウムを実施いたします。

少子高齢化が急速に進展する中で、子どもの発達にとって大切な環境をどのように考えればよいか、日米の研究成果の講演や当研究所で実施した調査結果をもとに、パネルディスカッションを行います。

サラ・フリードマン博士(元NICHD/米国国立小児保健・人間発達研究所)による基調講演(家庭外保育と子どもの発達の長期追跡調査)もあり、貴重なお話が聞ける会となっております。

子育て支援や家族支援にかかわる方、幼稚園・保育所の先生方、子育て中の保護者の方など、子どもの育ちに関心をお持ちの方々にご参加いただければ幸いです。

program

午前

●開会の挨拶●

小林 登(ベネッセ次世代育成研究所所長)

●日米の基調講演●

「家庭外保育と子どもの発達

—アメリカ国立小児保健・人間発達研究所(NICHD)の長期追跡調査結果から—

サラ・フリードマン(元NICHD/米国国立小児保健・人間発達研究所)

「日本での妊娠期から子育て期にかけての家族の変容について」

菅原ますみ(お茶の水女子大学大学院教授)

※通訳あり。

※講演タイトルは変わることがあります。

午後

●パネルディスカッション●

「乳幼児にとって望ましい子育て環境とは何か」

司会

大日向雅美(恵泉女学園大学大学院教授)

パネリスト

武石恵美子(法政大学教授)

大豆生田啓友(玉川大学准教授/NPO法人びーのびーの専任アドバイザー)

横関恭孝(東京都杉並区高井戸児童館館長)

主催：(株)ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所
後援：日本子ども学会、日本赤ちゃん学会
協力：チャイルド・リサーチ・ネット



乳幼児の
健やかな発達にとって
大切な環境とは何か

お申し込み方法

事前登録が必要です。

参加を希望される方は、**インターネットが往復はがきにて**、下記の事務局あてにお申し込みください。なお、申し込み多数の場合は先着順となりますので、あらかじめご了承ください。

インターネットからのお申し込み（10月4日締切）

ベネッセ次世代育成研究所のホームページから直接お申し込みください。

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>

ベネッセ次世代育成研究所

検索

往復はがきでのお申し込み（10月1日必着）

①お名前 ②ご所属 ③ご住所 ④お電話番号を明記し、⑤返信はがきの宛先に、ご自分の住所・氏名をご記入の上、下記事務局までお送りください。

<個人情報の取り扱いについて>

当シンポジウムへの参加お申し込みでご提供いただく個人情報は、シンポジウムについてのご連絡の目的で利用します。

お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721 フリーコール、日祝日・年末年始を除く、10時～20時)にて承ります。

(株)ベネッセコーポレーションCPO(個人情報保護最高責任者)

上記をご承諾くださる方はご記入ください。

事務局

ベネッセ次世代育成研究所
シンポジウム事務局

〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング16階

TEL 03-3295-0294

*10:00～17:00(12:00～13:00、土日祝日除く)

会場案内

東京大学・本郷キャンパス内
情報学環・福武ホール(赤門入って左)

<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/>

都営大江戸線・本郷三丁目駅(徒歩7分)

東京メトロ丸の内線・本郷三丁目駅(徒歩8分)

東京メトロ南北線・東大前駅(徒歩10分)



サラ・フリードマン

元NICHD / 米国国立小児保健・人間発達研究所。コーネル大学で教育心理学修士号、ジョージ・ワシントン大学大学院で発達・実験心理学博士号取得。国立精神保健研究所、国立教育大学院、国立小児保健・人間発達研究所を経て、現在、CNA健康管理政策研究局調査部長。米国心理学協会、米国心理学会、米国応用予防心理学会、総合心理学会員。子どもの社会的・情緒的・認知的・言語的・身体的発達の研究に多く携わっている。



菅原ますみ

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授。専門は発達心理学、子どものパーソナリティと精神病理の発達。国立精神・神経センター精神保健研究所、家族・地域研究室長などを歴任。著書は、『個性はどう育つか』(大修館書店)、『ママというオシゴト』(主婦の友社)など。



大日向雅美

恵泉女学園大学大学院教授。子育てひろば(あい・ぼーと)施設長。専門は、発達心理学・ジェンダー論。文部科学省・中央教育審議会生涯学習分科会部会長などを歴任。著者は、『子育て支援が親をダメにする』なんて言わせない』(岩波書店)、『母性の研究』(川島書店)など。



武石恵美子

法政大学教授。主な著書に、『男性の育児休業』(共著、中公新書)、『雇用システムと女性のキャリア』(勁草書房)、『人を活かす企業が伸びる』(共編著、勁草書房)、『女性の働きかた』(共編著、ミネルヴァ書房)など。その他、厚生労働省「中央最低賃金審議会」、内閣府「仕事と生活の調和に関する専門調査会」等の委員を務める。



大豆生田啓友

玉川大学准教授。NPO法人びーのびーの専任アドバイザー。元青山学院幼稚園教諭。専門は幼児教育学・保育学・子育て支援。著書に『支え合い、育ち合いの子育て支援』(関東学院大学出版会)、『よくわかる子育て支援・家族援助論』(ミネルヴァ書房)など。3人の子どもの父親。



横関恭孝

東京都杉並区高井戸児童館館長。杉並区に勤務する中で、杉並区児童館職員として、子どもの遊び・活動支援、乳幼児を持つ親子の支援にたずさわる。その後、杉並区児童青少年課に異動。子ども子育て行動計画や子育て応援券検討チームなどを通して、保健センター、保育所、子育て支援課といった区における子育て支援分野に横断的に関わる。2008年より現職。